

見樹院ニュース

0

TE

RA

浄土宗 見樹院

住職 大河内秀人

〒112-0002

東京都文京区小石川3-4-14

TEL 03 (3812) 3711

FAX 03 (3815) 7951

Eメール: hit@juko-in.com

http://www.kenjuuin.com

第41号 仏暦2546 (2003・平成15)年9月17日発行

秋季彼岸会法要 見樹会総会のご案内

今年も秋のお彼岸にあわせ、見樹会総会を下記の通り開催いたします。

建設基金の経過や旅行のことなど、多くのみなさまのご意見やご参加をいただきたく存じます。何卒ご参集くださいますようご案内申し上げます。

9月23日 (月・秋分の日)

午前11時 彼岸会法要

引き続き

見樹会総会

事業報告／決算報告／事業計画／予算

建設基金経過報告／その他

正午過ぎ終了



真西に沈む夕陽の彼方に

「彼岸(かの岸)」とは「此岸(こちら岸)」||《迷いの世界》に対して《さとのり世界》を意味します。

浄土教では、真西に沈む彼岸の夕

建築基金としてもご協力をお願いしている、将来を見越した寺のリニューアル事業の一環として、少子化やライフスタイルの変化に対応するため、墓地手前の右側が、合葬供養塔として一新されました。塔自体は離檀された吉野さんからの寄進で以前からあったものですが、この度、檀信徒総代の菊田英輔さんのご懇志で整備していただきました。

陽の彼方に極楽浄土を求め、祖先を想う心を向けていきました。

そこは何の不安も苦しみもないユートピア。菩薩の願いがすべて実現した、差別も争いも悪意もない憧れの世界です。その理想をめざして、与え分け合うこと、戒めを守ること、怒り憎しみを鎮めること、あきらめず励むこと、深く考えること、本当の智慧をみかくこと、の6つの実践をする期間が《おひがん》です。

極楽への憧れが大きいほど、その実践は力強くなります。ほとけとの願いが、固く一つになるほど、今のいのちは深まっていきます。浄土の信仰は、その理想への決意です。

その世界、その理想の詳細については、『無量寿経』というお経にあるのですが、カースト制の差別をはじめ、様々な苦しみに声を上げることもできない人々や暴力に訴えるしかできない人々、欲望の虜になつてきている人々、さらにはのし上がってきた権力の座を追われる不安を感じる人まで、すべての

(裏面に続く)

(表面より)

人々が解放され、円満に生きられる世界です。

単なるお伽噺か荒唐無稽な理想主義と思われるでしょうか。何をこの時代に、そんなノーテンキなと、相手にすらされないかもしれませぬ。

お釈迦さまが、その極楽浄土の様相を説いた『阿弥陀経』でも、その素晴らしい世界を賞賛する大衆の様子と共に、この汚れきった現実の悪世に生きる人々にとつては信じ難い教えを敢えて語つたとも伝えていきます。

しかし、それを信じることができれば、その確信は、いのちの深いところで確実な「安心」を得ることができるとのことです。

「信じるものは救われる」ということではありません。そして、信じるとは、依存することではありません。自分自身がそれと主体的に交わっていくことです。

智慧と慈悲を湛える理性によって積み上げられた、万人に共通する理想を、客観的な言葉として組み立て、生き方や社会に反映させていくことです。それはどんな宗教、文化、流儀によってもそれぞれ可能です。

《日本国憲法》も《世界人権宣言》も《子どもの権利条約》も、素晴らしい理想をあらわしています。もちろん文言の一部に、時代や状況によって修正すべきことがあったとしても、そのめざす理想に重大な意味があるのです。

理想を共有することが、安心や希望を支えるのであって、不安を理由に理想にケチをつけたり、踏みしめていくのは間違いです。いま、その理想が、はかり知れない犠牲の上に誓われたはずの理

念が邪魔者扱いされ、いとも簡単に切り捨てられようとしています。まさしく文化を退廃させ、金に支配された私たちの生き方が招いた結果に他なりません。このお彼岸の機会に、しっかりと地を足をつけて、自分自身の目と耳と感性と思考を大切にしながら、六つの実践を心がけましょう。《ほとけ》の願いを感じたとき、《私》の迷いに気がつくことでしょうか。

お詫び

建築基金の事務作業が遅れ、領収書の発送などが滞っております。皆様へご迷惑、ご心配をおかけしておりますことをお詫び申し上げます。

お願い

お彼岸等の折に、見樹会費や建築基金などをお持ちくださる方は、封筒にご氏名と金額を明記の上、

◆本のご紹介◆

今年発行された、住職の共・編著、掲載誌です。ご関心のある方はぜひ読んで下さい。お彼岸の折も頒布します。

■緊急増刊『世界』 NO WAR——立ち上がった世界市民の記録
強引におし進められる戦争に対し、平和を願う市民の運動が世界を駆け巡っています。住職が翻訳したジミー・カーター氏のメッセージが掲載されています。(岩波書店 1200円)

■環境えほん『ハルナの力(ちから)』
こどもからおとなまで、地球温暖化問題を中心に、具体的な話から環境のことを学べる内容です。(足温ネット 300円)

■足温ネット編『ECO・エコ省エネゲーム』
寿光院のソーラー発電を運営するNPO「元元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ(略称:足温ネット)」が開発した、家庭での二酸化炭素排出削減を競うゲームが本になりました。努力や忍耐ではなく、「お買い物」で省エネしてモトもとれちゃうという「現実」を数字で実感できます。家作りや製品選びにも参考になります。(合同出版 1680円)

■『戦争をしなくてすむ世界をつくる30の方法』
戦争が起きるには理由がある。それをなくせばいいと思って見えていくと、じつは私たちの生活の中に戦争を支える仕組みが隠れていた。だから私たちは戦争を止めることができる。と様々な実践をしている17人の仲間が書きました。新聞やテレビではない知識やアイデアがいっぱい。(合同出版 1300円)

■日本子どもを守る会編『2003子ども白書』
子どもをめぐる事件が後を絶ちません。一方「ゆとり教育」で危惧される学力低下や教育基本法の改正など、制度に関する問題も議論百出です。昨年1年間を通して子どもや子どもを取り巻く実情を掘り下げた白書です。(草土文化 2500円)